

総目次

第一編 津島の自然と人口

第一章 位置と地形	7
第二章 水系と海岸およびその変遷	17
第三章 気候と生物	25
第四章 災害	57
第五章 人口	66

第二編 津島の歴史

第一章 原始、古代	81
第二章 中正世	97
第三章 近世	149
第四章 近代	270
第五章 現代	370

第三編 躍進する津島町

第一章 町勢の変遷	467
第二章 伸展する津島町	527
第三章 町内交通通信の発達	545
第四章 産業の開発	558
第五章 教育の整備	657
第六章 民生	685
第七章 現在の町政	706

第四編 民俗と文化遺産

第一章 宗教	719
第二章 民俗	750
第三章 文化財	840
第四章 人物小伝	863

第一編

津島の自然と人口

目 次

第一編 津島の自然	3
第一章 位置と地形	7
一 位置と面積	7
1. 位置	7
2. 面積	8
二 地形と地質	11
1. 地形	11
2. 地質	13
第二章 水系と海岸およびその変遷	17
一 水系	17
1. 松田川上流の諸川	17
2. 岩松川流域とその変遷	18
3. 芳原川流域	21
二 海岸	21
1. 海岸の特長	21
2. 海岸の変遷	22
第三章 気候と生物	25
一 気候	25
1. 概況	25
2. 気温と降水量	25
3. 降水量	26
4. 風向、風力	29
二 生物	32
1. 動物	32
2. 植物	37
3. 魚類	44
4. 養殖	45
5. 海中生物	53
第四章 災害	57

第五章 人口	66
1. 昔の状態	66
2. 人口の推移	69

第二編
津島の歴史

第二編 津島の歴史

第一章 原始、古代	81
一、 原始社会時代の津島	81
二、 古代社会の津島	84
1. 古代社会	84
2. 佐伯部との関係	85
3. 宇和津彦神	88
4. 宇和郡と津島	90
第二章 中世	97
一、 平安時代の津島	97
1. 律令体制の崩壊と海賊	97
2. 藤原純友の乱	99
3. 荘園について	103
二、 武家社会と津島	109
1. 源平の盛衰と伊予	109
2. 西園寺氏と宇和	111
3. 橘氏と津島	112
4. 征西将軍懐良親王と津島	115
5. 津島と越智氏	126
第三章 近世	149
一、 豊臣封建時代津島領主	149
1. 小早川隆景	149
2. 戸田勝隆	150
① 西園寺氏全く滅ぶ	150
② 板島丸串城入城	159
③ 天正の検地	160
④ 文禄の役	160
3. 藤堂高虎	160
① 慶長の役	160
② 関か原の合戦	161

4. 富田信高	161
5. 天領となる	161
ニ 徳川藩政時代	162
1. 伊達秀宗初代宇和島藩主となる	162
2. 初代秀宗の時代	162
① 秀宗の創業概要	162
② 藩の年貢	163
③ 村方の治	172
3. 2代宗利の時代	191
① 和霊神社の創建	191
② 土地割替制度実施	194
③ 吉田3万石分封	203
④ 篠山境界争い	204
⑤ 宗利の治世	207
4. 3代宗賛の時代	208
① 宗賛の治世	208
② 新田開墾	210
5. 4代村年の治	211
① 享保の飢きん	211
② 宇和島藩救済の状況	212
6. 5代村候の時代	216
① 寛保、宝暦期の藩政	216
② 仙台藩との確執	222
③ 殖産興業	223
④ 免替	228
⑤ 敬老、精農寺の表彰	234
⑥ その他	235
7. 6代村寿の時代	235
① 財政の窮乏	236
② 塩田の事	237

③ 伊能忠敬の測量	239
8. 7代宗紀の時代	240
① 百事質素検約	241
② 漁事の豊富に当って	242
③ 蠟座について付記	242
④ 2百か年賦償却の事成立	243
⑤ 殖産興業	243
9. 幕末、宗城、宗徳時代	245
① 幕末の藩政事情	246
② 長州征伐と宇和島藩	249
③ 藩内政治	251
10. 藩政時代の庶民生活	254
① 年中行事	256
② 故人随筆	263
第四章 近代	270
一 明治維新	270
ニ 版籍奉還の村々	271
1. 津島騒動(庄屋征伐)	274
2. 廃藩置県と伊予	275
3. 串灘事件	282
三 神山県当時	293
四 愛媛県の成立と地方自治の発展	294
五 地租改正	297
1. 地租改正の背景	297
2. 地租改正の準備	299
3. 地租改正の実施とその内容	300
4. 地租改正の影響	304
六 県境問題	306
七 岩村権令の着任と県行政の刷新	307
1. 郡区町村編成法	308

2. 戸長官選の実施	310
六、学校制度と郷内教育状況	316
1. 学制	316
2. 教育令	317
3. 学校令	319
4. 郷内教育事情	320
① 御槇尋常小学校	320
② 増穂尋常小学校	320
③ 岩淵尋常小学校	321
④ 山財尋常小学校	322
⑤ 岩松尋常小学校	323
⑥ 高田尋常小学校	326
⑦ 近家尋常小学校	327
⑧ 牛ノ浦尋常小学校	327
⑨ 国延尋常小学校	328
⑩ 大日提尋常小学校	328
⑪ 畑地尋常小学校	329
⑫ 横山尋常小学校	329
⑬ 上槇尋常小学校	330
⑭ 浦知尋常小学校	331
⑮ 下灘尋常小学校	331
⑯ 曾根尋常小学校	332
⑰ 由良尋常小学校	332
⑱ 竹か島小学校	333
⑲ 津島高等小学校	333
六、徴兵制と日清、日露戦争	334
1. 日清戦争と松山第22聯隊の出征	335
2. 日露戦争と松山第22聯隊の活躍	337
六、明治時代の殖産興業	342

1. 養蚕製糸業の勃興	343
2. 小西真珠平城に開設	346
3. 郷内漁業	347
① 北灘地区	347
② 下灘地区	348
七、明治時代の地方風俗	350
1. 明治中期の経済事情	350
2. 明治における男女の頭髪と化粧	352
3. 明治時代の衣服の変遷	355
4. 明治時代の食生活	357
5. 明治時代における特殊な風習	360
6. 明治時代の年中行事と風習	363
第五章 現代	370
一、第1次大戦当時の経済界	370
1. 製糸業	370
2. 酒精会社	373
3. 電気会社	374
二、郷土に関係の諸事件	375
1. 米騒動	375
2. 大正かぜ	377
3. 交通の発達	378
① 南子沿岸航路の開拓	378
② 宇和島自動車の登場	379
③ 道路の改修	379
4. 岩松町制実施	380
三、第1次大戦後の不況	382
1. 農、漁村の不況	382
2. 生糸業の不振	384
3. 金融恐慌による農村の疲弊	384
4. 郷内産業状況	386

① 工業	386
② 水産業	386
四、交通機関の統一	387
1. 旅客船の競争	387
2. バス路線の統合	388
五、岩松、高近の合併	389
六、教育の躍進	392
1. 本県教育界の進展	392
2. 郷内教育の状況	394
① 下灘第2小学校	394
② 清満小学校統一	395
③ 岩松小学校々地新設移転	395
④ 国民学校時代	397
七、戦時下の耐乏生活	408
八、終戦直後の状況	409
1. 敗戦直後の社会状況	409
2. テラ台風の惨害	411
3. 天皇バンザイ	412
4. てんやわんや	413
九、農地改革	417
1. 第1次農地改革	417
2. 第2次農地改革	419
十、開発事業	421
1. 岩松代行干拓事業	422
2. 近家地区補助干拓事業	423
十一、教育行政の変革	426
1. 高等学校の創設	426
2. 中学校教育	427
3. 小学校教育	429
十二、町村合併促進法の実施	429

1. 町村合併の問題	429
2. 津島町の誕生	431
① 廃置分合を必要とした理由	431
② 合併促進協議会の概要	432
③ 合併資料	433
④ 合併協議書	441
⑤ 新町建設計画	443
⑥ 新町建設計画による建設事業計画書	452

第三編

躍進する津島町

第三編 躍進する津島町

第一章 町勢の変遷	467
一 津島町になるまでの概要	467
二 歴代町村三役名簿	469
1. 岩松村(町)	469
2. 清満村	471
3. 御槇村	472
4. 畑地村	473
5. 下灘村	474
6. 北灘村	475
三 町内の概要	476
四 合併以前の各町村の状況	481
1. 御槇村勢要覧	481
2. 清満村勢要覧	488
3. 岩松町勢要覧	495
4. 畑地村勢要覧	505
5. 下灘村勢要覧	512
6. 北灘村勢要覧	519
第二章 伸展する津島町	527
一 財政の膨張	527
二 藤堂町政時代の発展	529
1. 津島高等学校全日制昇格	529
2. 総合病院の建設	532
3. 老人福祉センターの設置	533
4. 火葬場の新設	538
5. ゴミ焼却場	539
6. 教員住宅新設	539
7. 隣保館	541
8. 新庁舎の建設	544
9. その他	544

第三章 町内交通通信の発達	545
一、道路の開発	545
1. おくれた道路開発	545
2. 明治以前の陸上交通	545
① 最も古い街道	545
② 海岸通り(遍路道)	546
③ 村から村へ	546
3. 明治以後の発達	546
① 岩松中心の道路	547
② 御槇線	547
③ その他	547
④ 畑地と下灘の道路改修おくれる	548
4. 整備されてきた陸上交通	548
① 松尾隊道の開通	549
② 津島大橋の架設と道路付け替え	549
③ 嵐板トンネルの開通	550
④ 県道に編入された道路	550
二、交通機関の発達	551
1. 陸上交通機関	551
2. 海運の発達	553
3. 電燈と通信機関	555
第四章 産業の開発	558
一、農業	558
1. 農政の変遷	558
① 封建時代の農政	558
② 明治時代	561
③ 大正時代	562
④ 昭和初期	564
2. 農村更生運動	564
3. 供出制度	568

4. 新農村建設事業	569
① 第1地区計画の概要(下灘)	570
② 第2地区(岩松、畑地)	575
③ 第3地区(北灘)	580
④ 第4地区(清満、御槇)	588
5. 農業構造改善事業	592
6. 土地利用と経営規模	601
① 土地利用	601
② 農家と経営規模	601
7. 農業の機械化	608
8. 柑きつ栽培の振興	608
① 沿革	608
② 最近の柑きつ	611
9. 畜産	611
① 農業経営と畜産	611
② 大久保山牧場	614
③ 斗牛	615
10. 養蚕業	616
11. 農業団体の充実	618
① 農業協同組合	618
② 農業共済組合	621
二、林業	623
1. 最近の林野	623
2. 公有林	624
3. 民有林	624
4. 林産物	626
5. 森林組合	628
三、水産業	630
1. 水産業のおこり	630
2. 藩政時代	631

3. 明治時代	633
4. 大正時代	636
5. 昭和初期	636
6. 今日の漁業経営状況	639
四 商、工業	641
1. 商業	641
2. 工業	649
3. 金融	653
第五章 教育の整備	657
一 終戦後の教育体制	657
二 教育委員会	657
三 学校教育の整備統合	659
1. 津島中学校誕生	659
① 統合の経過	660
② 施設の概要	663
③ 津島中の現況	667
2. 横山小学校の閉校	668
3. 少年自然の家誕生	668
4. 津島町教育会	669
① 沿革	669
② 研究大会々場校	670
③ 歴代会長	670
付 歴代学校長一覧	670
四 社会教育	676
1. 社会教育の芽生え	676
2. 公民館	678
3. 社会教育団体	680
① 青年団、処女会	680
② 婦人会	682
③ その他の諸団体	683

④ 父母と教師の会	684
第六章 民生	685
一 治安	685
1. 警察	685
2. 消防団	686
① 沿革	686
② 現状	687
二 民生	688
1. 民生委員会	688
2. 保育事業	689
3. 保険・年金	689
4. 津島荘	690
5. 母子センター	691
6. 遺族同盟会	691
三 保健衛生	702
1. 伝染病	702
2. 予防対策	703
四 水道	704
第七章 現在の町政機構	706
一 執行機関	706
二 町行政機構	707
三 議決機関	709
	710
	710
	711
	712

第 四 編
民 俗 と 文 化 遺 産

第四編 民俗と文化遺産

第一章 宗教	719
一 神社	719
1. 藩政時代の神社と信仰生活	720
2. 明治以後の神社と信仰	721
3. 現在の町の神社	722
二 寺院	738
1. 御横地区	738
2. 清満地区	739
3. 岩松地区	742
4. 畑地地区	744
5. 北灘地区	745
6. 下灘地区	745
7. 山岳信仰	747
8. 四国八十八所霊場巡拝	748
9. 寺院の興隆	748
第二章 民俗	750
一 祭りと行事	750
1. 正月（年末年始）の行事	750
2. 節分	752
3. 二月入り	752
4. 社日	753
5. 彼岸	753
6. 三月節句	753
7. おしゃかさま	753
8. 五月節句	753
9. 六月入り	754
10. 七夕祭り	754
11. 盆の行事	754
12. 八朔	755

13. 伝説・民話	755
14. 秋祭り	755
ニ 伝説・民話	756
三 ことわざと迷信	769
1. ことわざ	769
2. 迷信	770
四 方言	772
五 民俗・芸能	824
1. 町民気質	824
2. 衣食住	824
3. 婚姻・葬儀・その他	825
4. 民謡	827
第三章 文化財	840
一 県指定天然記念物・有形文化財	840
二 町指定天然記念物	848
第四章 人物小伝	863